

《議事録》

1 日時

令和5年12月18日(月)10時00分から11時10分まで

2 場所

幕別町役場 会議室3-A・B

3 概要

< 1 委員長あいさつ >

特になし

< 2 協議事項 >

事前送付した資料を基に事務局から説明。

(笹村委員) 見直し案のP9について、先日ゆとりみらい21推進協議会営農環境対策専門部会において、部会員にも指導農業士制度や農業士制度が理解されていない状況だった。普及センターとして普及啓発に努めていきたい。また、情報提供体制について、例えば幕別町農業試験圃場の運営方法は見直されることとなっていたはずだが、そういったことも踏まえられた記載となっているのか。

(事務局) 幕別町農業試験圃場の運営方法については、現在ゆとりみらい21推進協議会地域農業政策専門部会で検討しているところ。まだ今後どうするかについて確定していないが、現時点では令和8年度までは現状通り、町が運営していき、その後は幕別町農協との協議中ではあるが、委託や圃場の貸与といった様々な可能性を考えている。試験事業は重要と考えているため、可能な限り継続できるように検討していく。

(岡田委員) 見直し案の記載は今の説明を踏まえた内容となっているということ。

(市川委員) P39の家畜衛生対策について、これは情報提供だが、管轄の大樹町及び広尾町においてすでにヨーネ病が今季40戸超確認されており、これは昨季400戸の1割に当たる。豊頃町でも確認されているので、幕別管内においても引き続き注意していきたい。また、最近の研究結果としてエゾシカでヨーネ病に感染している個体が確認されており、エゾシカの出没数とヨーネ病の感染状況に関連性が認められる。町営牧場で着地検査を行うなど、更なる感染防止対策が必要ではないか。

(事務局) 各種感染症の対策については、重要な問題だと考えているので、町営牧場で御指摘の対策を講じることができるかどうか、検討してまいりたい。

- (中村委員) 見直し案P42について、シカ害の被害額は横ばいという表現で、確かにアンケート結果に基づけばそうなるが、肌感覚としては年々増えてきている。アンケートは毎回同じ内容で答えるのが面倒ということで正確なデータが取れていないのだと思う。表現はどうにかならないか。
- (事務局) アンケートの回収率が4割程度のものであり、実際とアンケートと異なる部分があるのは承知している。アライグマなどのそのほかの有害鳥獣の被害は増加傾向にあり、委員御指摘のような状況であることは理解している。ただし、本計画にある記載はいずれも実際のデータをもとにしていることから見直し案の記載については御理解いただきたい。
- (岡田委員) この調査は国の被害額の根拠資料となっており、計画の性質上、そういったデータに基づいた記載しかできない。アンケート回収率が低いことは確かに実態との乖離を産む要因となっている。アンケートの回収率を上げるための努力はしていきたい。
- (内野委員) 若い後継者は特に最近郵便ポストを見る習慣もなく、手書きで回答するのも煩わしいと考えていると思う。自動走行できるトラクターに乗りながらスマホであれば回答できるので、QRコードで回答できるようにするなどデジタル化による省力化が必要だと思う。
- (貝出委員) 猟友会の体制について、現行計画の傾向や直近5年間の傾向を見て、猟友会の平均年齢を含めた2027年度までの見通しはどうか、また、これまでにどれだけ入会の件数があったのか。
- (事務局) 令和4年度までの4年間で銃免許を取得している方は新たに6人、箱罟免許を取得している方は新たに8人の、のべ14人入会している。また、猟友会の最年長は令和4年度時点で89歳となっているが、実際は50～60代の会員を中心に活動している。シカについては、主に銃で駆除することとなるが、ライフルの免許取得に当たっては散弾銃の免許を取得してから10年必要であることから、若い方が活躍できるよう免許の早期取得に向けた支援を行っていきたいと考えている。
- (岡坂委員長) 質問がなければ、本日は以上で終了となる。次回以降もよろしくお願ひしたい。

以上